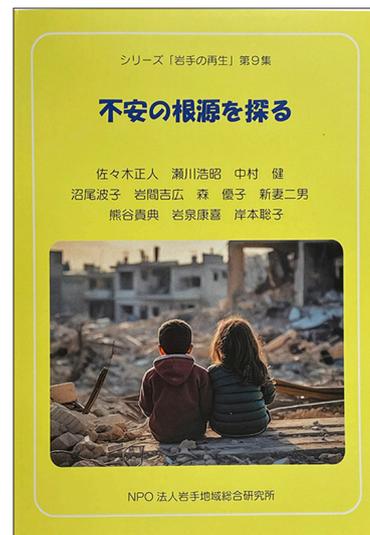


井上博夫ほか 著

『シリーズ「岩手の再生」 第9集 不安の根源探る』

岩手地域総合研究所 2024年9月刊
定価：本体500円（税込）

新沼 優（岩手自治労連）



岩手地域総合研究所では毎年、会員と市民の学習と地域課題を掘り下げる場として、連続講座「岩手の再生」を開催してきました。2023年度はメインテーマを「不安の根源を探る」として、誰もが心の中に抱える「不安」の原因を生活の中から見つけ出し、解き放つ方途を見つけ出そうと、4つの分野でシンポジウムを実施しました。その結果を今年9月に『シリーズ「岩手の再生」第9集』としてブックレットに収めましたのでご紹介します。

第1回は「岩手県最低賃金をどうすべきか？」をテーマに、地方最低賃金審議会の雇用者側委員と労働者側委員が参加したシンポジウムが行われました。都市圏と地方の賃金格差が拡大していること、全国一律の最低賃金は格差是正に効果があることなどの議論が交わされました。

第2回は「岩手の地域医療を守るために～『持続可能で希望ある岩手を実現するための行財政改革報告書』をふまえて～」のテーマで行われました。岩手県行財政研究会構成員、岩手県職員、岩手県医療局労組の代表が参加しました。県立病院の「県下にあまねく良質な医療の均てんを」という創業精神をどう守っていくか、県立病院の現状、医療の助けを必要としている地域・住民の状況、医療従事者の過酷さ、そして尊さを取り上げながら、解決すべき問題を明確にした論議を進めまし

た。

第3回は「不登校問題を考える～学校教育環境に焦点をおいて～」のテーマで開催されました。岩手県教育委員、現役中学校教師、フリースクールの副校長が、なぜ、不登校は増加しているのか。その要因について、日本の教育には何が必要なのか、不登校の現状や学校現場の支援の在り方について徹底的に議論しました。

第4回は「公共の役割を問い直す～自治体行政の可能性～」と題して東京都杉並区長の岸本聡子さんがオンラインで講演会を行いました。岸本さんは、民主主義の危機の時代だからこそ、水道、医療、図書館などの公共施設を行政に取りもどす、地方自治の根幹である「地域主権」は住民参加型で実現するなど、対話の場をつくっていかねばならないと強調しました。さらに、行政職員と一緒に地域・住民と共に街づくりをすすめるのが民主化であると力説し、社会の課題に当事者として、本気で向き合う姿勢は情熱的で熱意が伝わってきました。

最後に、このブックレットが、地域の特性に即した地域課題の解決のために活用されることを期待しています。

（にいぬま ゆう）